

## 0410 | 工芸論

2 単位（通信授業 2 単位）

玉蟲敏子教授、鈴木希帆講師

## 授業の概要と目標

形（かたち）を生み出す行為は、工人の「技術（わざ、つくり）」と「意匠（かざり）」によって成り立っている。これに加えて「用」の観点はその行為を発する源にある。この授業科目では、このような前提をふまえ、日本の工芸史のうえで特筆されるべき事象について、更なる切り口で考察する。東西の造形的文化交流を視野に入れながら日本の工芸の特質を浮き彫りにしようとする意欲を期待したい。

また教科書では扱わない明治以降の工芸史については、いわゆる「人間国宝」という存在を通して学ぶことにより、現代における伝統工芸へのさまざまな問題意識を持って欲しい。

## 課題の概要

## ○通信授業課題 1

日本の工芸のうち、海外との交流から影響を受けたと考えられる作品を選び詳述しなさい。

## ○通信授業課題 2

任意の重要無形文化財について述べなさい。

\* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

『造形文化科目・教職に関する科目学習指導書』所収「学習の進め方」（必読）の項目で指摘したように、教科書『日本造形史』では、工芸を扱う箇所が様々な視点から折り畳むように扱われているので、そこを丁寧に読み解くこと。

① 各人の参考とする美術全集、文献、図版などの選択を行いつつ、教科書の読解を行う。

## 第 1 部「生活の造形」

全 7 章で、造形史の基礎全般を学ぶ。

## 第 2 部「宗教の造形」

第 1 章（原始信仰の造形）、第 3 章（顕教の造形）、第 6 章（禪の造形）

ここでは工芸に関係する 3 つの章を学ぶ。

## 第 3 部「作家の造形」

第 3 章（彫刻家と工芸家）、第 4 章（茶匠と花匠）

ここでは工芸に関係する 2 つの章を学ぶ。

## ② 通信教育課題での学び方

課題 1 では教科書と参考文献を利用してテーマを絞り、海外との比較を通して日本の造形を学ぶ。

課題 2 では人間国宝を学び、身近にあるわざの伝承を調査し、認識する。

## 成績評価の方法

## ◎科目試験

科目試験には、教科書の内容、及び課題 1、2 に関連した問題を複数問、記述式で出題する。少なくとも教科書に掲載される工芸の図版（カラー、白黒とも）についての説明はできるように学習しておくこと。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

## 教材等

教科書：水尾比呂志『日本造形史 用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）

## その他

身の回りの工芸品から博物館などで見られる工芸品まで、常にその世界に触れることを心掛けよう。